

「令和5年度第2回学校関係者評価委員会」報告

1 日時 令和5年11月30日（木）14:30～授業見学, 15:00～大会議室

2 学校関係者評価委員

大口中央中学校長	竹ノ山 誠 忠
大口高等学校PTA会長	別 府 弘 律
大口高等学校PTA副会長	荳 口 桂
大口高等学校同窓会長	出木場 洋
地域住民代表	前 畑 竜 郎

3 学校職員の出席者

校長, 教頭, 事務長, 教務主任, 生徒指導主任, 進路指導主任, 保健主任

4 内容

- (1) 授業見学
- (2) 開会の挨拶(校長)
- (3) 中間報告・意見交換
 - ① 学校の現況報告(教頭)
 - ② 各部・各学年の取組, 現状と課題等の説明(各部主任, 事務長)
- (4) 学校評価アンケートについて(教頭)
- (5) 質疑応答, 大口高校への提言等
- (6) 閉会の挨拶(教頭)

5 主な質疑応答, 学校への提言等

- ・ Q: 生徒に自己肯定感を持たせる指導は, 中学校でも重要と考えている。現在, 主体性を持たせる指導の一環で, 校則の見直しの検討を進めている。高校ではどのように行っているか。
A: 各クラスLHRで話し合った結果を生徒会役員で協議し, 変更の必要があると思われるものについては, 保護者や同窓会にも協力をもらい協議するという形を考えている。教員はなるべくサポートする姿勢で関わることで, 生徒の主体性を引き出す工夫をしている。
- ・ Q: ニュースでSNSに起因する問題をよく聞く。スマホの利用については, 保護者の意識向上も必要だと感じている。大口高校ではどのように指導しているか。
A: 毎年, 4月に専門家を招聘してスマホに関する講演会を開催している。保護者にも案内しているが, 出席者は少ない。多くの保護者に参加してもらえる工夫が必要と感じている。
- ・ Q: 生徒の学力差は大きいと思われるが, 解決のための工夫などはされているか。
A: 習熟度別の授業を実施している。その他, 放課後などに個別指導等を行っている。
- ・ 大口高校が地域の中で生き生きと活動している姿をよく見る。PR活動についても新聞への掲載も他校と比べて多い。また, 学校日より「茜雲」を保護者だけでなく市内全家庭に配付しており, 地域の方々にも学校や生徒の様子がよくわかってありがたい。
- ・ 羽月や山野の保護者から, 中学校のスクールバスは大口高校の目の前を通るのだから, 座席に余裕があれば高校生も乗せてもらいたいという相談がPTAに寄せられている。中学生の保護者からも, 「スクールバスで通学できるのであれば大口高校に行かせたい。」という声も聞く。
- ・ 現在の枠組みでは中学校のスクールバスへの高校生の同乗はできないと聞いている。しかし, 困っている伊佐の子どもたちに対して, どうしたらできるかを, 我々大人が考えなければならない。同窓会としても伊佐市に働きかけてみたい。
- ・ 部活動説明会や個別相談会等はずっと早い時期に実施した方が効果的である。学校説明会や体験入学については, 高校生を前面に出した方が中学生に響くと思う。両校とも総合学習で「地域の活性化」をテーマに活動しているので, 連携することで大口高校を身近に感じるのではないかと思う。